

ダイナミック・バッファリングについて

以下は、DBR に関連する概念として知られている「ダイナミック・バッファリング」について、エリ・シュラーゲンハイムから得た情報です。皆様にもお役に立つだろうと思います、toc-japan に掲載します。

なお、この概念については、ゴールドラットの著書 "Haystack Syndrome"、および、ビル・デットマー、エリ・シュラーゲンハイム共著の "Manufacturing at Warp Speed" (邦訳「制約が市場にあるとき」小林英三訳、ラッセル社刊) に触れられています。

以下は、エリ・シュラーゲンハイムから小生宛のメールに基づくものです。なお、もとの小生の質問は、「ダイナミック・バッファリング機能をサポートしている Haystack Compatible DBR ソリューションはあるのか」というものでした。

小林さん

ダイナミック・バッファリングというアイデアは、エリ・ゴールドラットの著書「Haystack Syndrome」の中で、エリ・ゴールドラットにより、初めて、触れられました。このアイデアは、マーフィーから制約資源を防護するためのバッファを、それまでのやり方よりも小さくしようとするもので、制約でない資源のピーク負荷をチェックし、必要に応じて、マーフィーバッファを大きくしようするものでした。しかし、後になって、エリ自身が、このアルゴリズムが、実は、必要でないことに気がつきました。

私が知っている「ダイナミック・バッファリングという機能」を持っている唯一のソフトウェアは、Disaster (後に改名され The Goal System となる) ですが、このソフトウェアは、今でも幾つかの会社の現場で使われているようですが、現在は、販売されていないでしょう。

そういうことで、エリ・ゴールドラットのいう意味での、ダイナミック・バッファリング機能をサポートしている DBR ソリューションはないと思います。

2004 年 12 月 29 日

エリ・シュラーゲンハイム
